

峡雲荘

岩間て入浴

峡雲荘本館の外観は、背が高く細長い窓がついており、どこかアルプスの山小屋を思わせる洋風です。しかし、内部は完全に和風で、地熱を利用した暖房が完備された障子張りの畳の部屋です。

「当初のデザインは外も中も洋風だったのですが、私は伝統的な日本様式の方がよかったですので、建築家に内装を作り直してもらいました」と孝子さんは説明します。

峡雲荘には 28 の客室があります。そのうち、本館の両側にある古い棟の 5 室だけが自炊を行う長期滞在の湯治客用に残されています。現在、伝統的な湯治を目的とした利用者は宿泊客のわずか 1 割程度です。温泉を目当てに訪れる客や、岩手山（2,038m）や八幡平（1,614m）で登山や山スキーを楽しむ客が増えてきています。ちなみに、この 2 山はどちらも登山家・深田久弥氏がお気に入りの百山を紹介し、成仁親王（現天皇）が好意的なコメントを寄せたことでベストセラーとなった 1964 年の名著『日本百名山』に取り上げられています。

森を見下ろす高台にある峡雲荘の混浴露天風呂は、この宿のシンボルです。この風呂には大きな岩がいくつも組み込まれており、そのひとつは風呂の中央から垂直にそびえ立っています。この風呂は 1982 年に造園家によって造られたことから、岩の配置が大胆で、伝統的な日本庭園で見られる装飾的な池に似ています。